

レーザセンシング学会誌執筆要領

レーザセンシング学会誌編集委員会

令和3(2021)年4月1日制定・施行

令和3(2021)年9月30日改訂

令和4(2022)年4月1日改訂

1. 言語

日本語または英語を使用すること。

2. 原稿の作成と提出

- ① 本学会ホームページより A4 規格のテンプレートをダウンロードし、テンプレートを参考に作成すること。
- ② テキストは Word 形式のファイルを提出すること。査読者の便宜を図るため、ページ番号、本文に行番号を付けること。
- ③ 図は tif, jpg, PDF 等の形式のファイルを提出すること。画像の場合は 300dpi 程度の高解像度で低圧縮又は無圧縮のファイルを提出すること。
- ④ 表は PDF 形式のファイルを提出すること。
- ⑤ 原稿及び図表等のファイルは、本学会ホームページよりダウンロードした投稿フォームを添えて、本学会編集委員会 (lrsj-edit_office@laser-sensing.jp) 宛に提出すること。

3. 論文等の長さ(目安)

- ① 論文：15,000 字～30,000 字
 - ② 総説：20,000 字以内
 - ③ 小論文：15,000 字以内
 - ④ 解説：20,000 字以内
 - ⑤ 図表に対応する文字カウント数は、標準的な大きさ、縦横比の図の場合で 400 字/個程度となる。
 - ⑥ その他は内容を十分に伝えることの出来る最適の長さとする。
- *刷り上がり目安としては、2500 字程度/ページとなる。

4. 掲載料

- ① 刷り上がり 1 ページにつき 2,500 円の負担とする。ただし、学会誌編集委員会から依頼された原稿については、掲載料は徴収しない。
 - ② 超過分(「3. 論文等の長さ」参照)の掲載については実費を徴収する。但し、編集委員会が認めた場合はこの限りではない。
- *会員・非会員の別はない。

5. 論文等の構成

論文等の原稿は、次の順序で作成すること。

- ① 論文題名(和文)
- ② 論文題名(英文)
- ③ 著者名(和文)(連絡著者に*を付すこと)
- ④ 所属および住所(和文)(英文原稿の場合は不要)
- ⑤ 著者名(英文)(連絡著者に*を付すこと)
- ⑥ 所属および住所(英文)
- ⑦ 概要(英文, 150 語以内)(論文・総説(レビュー)・小論文は必須。その他の原稿は任意)

- ⑧ キーワード (4~5 ワード)
- ⑨ キーワード (英文) (4~5 ワード)
- ⑩ 本文 (和文)
- ⑪ 謝辞 (和文)
- ⑫ データ利用可能性 (Data availability) (和文)
- ⑬ 研究費 (Funding) (和文)
- ⑭ 利益相反の開示 (Disclosure) (和文)
- ⑮ 引用文献
- ⑯ 付録 (和文)
- ⑰ 著者紹介 (和文) (各著者 300 字以内)
 - ・解説記事は、著者紹介用写真を投稿時に提出すること。
 - ・解説以外の記事は、著者紹介用写真を採録決定後に提出すること。
 - ・巻頭言には、著者紹介は掲載しない。
- ⑱ すべての図、写真、表
 - ・図、写真、表は本文原稿中に挿入せず、別のシートとして作成すること。ただし、文中に、図表の挿入箇所については記載すること。
 - ・脚注は原則として英語とする。
 なお英文原稿の場合は、上記の構成で、⑩~⑱を英文にすること。

6. 用字と用語

- ① 特殊な用語や略語が多用される場合は、参考文献の次に用語・略語の説明をまとめることが望ましい。
- ② 句読点は、句点「。」と読点「、」を用いず、「.」、「,」を用いる。それぞれ**全角**を用いること。(なお、参考文献リストおよび英文の場合は、半角の「.」、「,」とし、その後に単語が続く場合は、半角スペースをひとつ入れること。詳細は付録参照)

7. 見出しについて

- ① 大見出し“1.”など左つめ
 - ② 中見出し“1.1”など左つめ
 - ③ 小見出し“1.1.1”など左つめ
- これより下位のレベルは、著者の任意とする。

8. 図、写真、表

- ① 全ての図、写真、表は、本文中で引用すること。
- ② おおよその図表挿入位置を、本文中に、たとえば
[Fig. 1]
のように、明記すること。
- ③ 図表の中の用語および説明は、原則として英語を用いること。
- ④ 図、写真、表は、論文の最後にまとめること。
- ⑤ 図表の説明

(例1) 表および図 (カラーを含んで本文中に挿入する場合)

表のとき: Table 1, Table 2,, Table 10,

図または写真のとき: Fig. 1, Fig. 2,, Fig. 10

カラー写真等で、本文中ではなく論文最後にまとめて掲載する場合: Plate1, Plate 2,, Plate 10

(例2) 文章中の表現.....を Fig. 1, Table 1 および Plate 1 に示す。

Fig. 1 Concept of laser sensing systems.

Table 1 Summary of space-based active sensors.

9. 引用文献

① 引用文献の範囲

原則として公開出版物の範囲に留めること。

② 引用の仕方

本文中の該当する箇所に半角で“1)”等の上つき番号を出現順に付けて引用すること。

③ 引用文献リストの書き方

引用文献リストは付録の形式を参考にして作成すること。著者が複数の場合も、原則として全著者の氏名（英語の場合は氏とイニシャル）を記入すること。英文論文標題中の単語については、文頭および固有名称などで必要な場合以外は小文字を使用すること。

④ 雑誌名の略記

通常、学術雑誌名は（特に英文雑誌などでは）かなり長いので、雑誌名の理解を妨げない範囲で略記を行なってよい。また編集段階において、学会側で略記形式に変更することがある。

⑤ 査読者が入手しにくい引用文献は、編集委員会の判断でコピーなどの提出を求めることがある。

⑥ ウェブサイトを引用する場合は、最終アクセス日付を（2020.8.1）のように記載すること。

10. 他誌から本誌に引用する場合の注意

① 引用する文献の著作権に十分注意すること。

② 図面・表・写真を他の図書、雑誌などから引用する場合には、著者の責任で事前にその著者および出版社の了承を得ること。

付録 引用文献リストの書き方（ガイドライン）

1. 雑誌

- 1) 著者名，“標題，”雑誌名. 巻（号），始め一終りのページ（年（西暦））。
- 2) 東京太郎，大阪次郎，“レーザセンシング学会誌の書き方，”レーザセンシング学会誌. **18**（1），20–27（2018）。
- 3) T. Tokyo and J. Osaka, “How to write LRSJ,” J. Laser Radar Sens. Soc. Japan. **18**（1），20–27（2018）。

2. 著書，編書

- 1)（編）著者名，書名，発行所（発行年（西暦））。
- 2) 東京太郎（編），レーザセンシング技術辞典，レーザセンシング出版（2018）。
- 3) T. Tokyo (ed.), Handbook of Laser Sensing, LRSJ Publ. Co. (2018)。

3. 著書の一部を引用する場合

- 1) 著者名，“表題，”書名，編者名（発行所，発行年（西暦）），始め一終りのページ。
- 2) 大阪次郎，“レーザセンサ，”レーザセンシング技術辞典，東京太郎編（レーザセンシング出版，2018），pp. 145–250。
- 3) J. Osaka, “Laser Sensor,” in Laser Sensing Handbook, T. Tokyo, ed. (LRSJ Publ. Co., 2018), pp. 145–250。

4. 学会・会議

- 1) 著者名，“表題，”会議名，都市名，国名，（年（西暦））。
- 2) 東京太郎，大阪次郎，“レーザセンシングの研究手法，”国際レーザーレーダーシンポジウム，東京，日本（2018）。
- 3) T. Tokyo and J. Osaka, “How to study laser sensing,” in Inter. Symp. on Laser Radar, Tokyo, Japan (2018)。

5. 学会・会議論文集

- 1) 著者名, “標題,” 学会論文集名. 巻 (号), 始め一終りのページ (年 (西暦)).
- 2) 東京太郎, 大阪次郎, “レーザセンシングデータの研究方法,” 第40回国際レーザセンシングシンポジウム, 18, 950-953 (2018).
- 3) T. Tokyo, and J. Osaka, “How to study laser sensing,” Proc. 40th Inter. Symp. on Laser Sensing. **18**, 950-953 (2018).

6. インターネットサイトの引用

- 1) 著者名, “標題,” URL (最終アクセス年月日)
- 2) 東京太郎, “レーザセンシングデータの研究方法,” <https://laser-sensing.jp/gakkaishi.html> (Accessed 2019.12.19)
- 3) T. Tokyo, “How to study laser sensing,” <https://laser-sensing.jp/gakkaishi.html> (Accessed 2019.12.19)
(著者不明の場合は, 和文では「著者不明」, 英文では「Anonymous」とする)

7. 日本語での著者名に関する注意事項

姓と名の記述は, 次の例にならうこと: 東京太郎, 鈴木 正, 泉 宏治, 林 誠, 森信一郎, 山田洋一